

社会科

ヴェトナム戦争の授業化に向けて ーヴェトナム戦争の導入としての映画「フルメタルジャケット」ー

山田 孝

【抄録】 戦争をどう教えるか、これは歴史教育において重要な課題である。その戦争自体も、第二次世界大戦、アジア・太平洋戦争だけでなく、もっと現代的なヴェトナム戦争をどう教えるかという問題を含んできていると考えなくてはならなくなってきた。これは、アジア・太平洋戦争は言うまでもなく、ヴェトナム戦争自体を体験せずに育ってきた高校生が増えてきたからである。ここでは、ヴェトナム戦争の導入を一本の映画から考えてみたい。

【キーワード】 ヴェトナム戦争 「フルメタルジャケット」 「プラトーン」 平和学習

はじめに

ヴェトナム戦争がヴェトナム共和国の消滅で終結したのが、1975年の春であった。私はちょうど高校生であったが、その時の印象は今でも強烈に覚えている。非常に「爽やかな」気分であったことだ。子どもの頃から、テレビのニュースでは必ずヴェトナム戦争の戦況が毎回放映されていたし、ヴェトナム反戦の動きも報じられていた。そういう状況だったので、それなりにヴェトナム戦争には関心を持っていたのであり、常に意識の中で重くのしかかっていた問題でもあった。今でも強く印象に残っているのが、仏教徒の焼身自殺のシーンである。ヴェトナム戦争を訴えるドキュメント「ハーツアンドマインド」もテレビで放送され、ヴェトナム戦争に対しての関心も高まっているときでもあった。そうした状況のなかで、生まれる前から続いていた戦争が解決したので特に感慨深いものがあつた。

自分にとっては感慨の深い戦争であったのだが、最近の高校生にはヴェトナム戦争の話が全く通じないのである。よく考えれば現在の高校生は、ヴェトナム戦争の後に生まれているのである。戦後しばらくたって生まれた、我々が、十五年戦争、アジア・太平洋戦争の話の聞かなくてはわからないように、高校生たちもヴェトナム戦争の話の聞かなければわからないのである。

現在、高校一年生で必修の世界史を近現代史を中心に学習しているのだが、なかなかヴェトナム戦争までたどり着かない実状もある。そうした現状の反省をふまえつつ、ヴェトナム戦争の授業化について考えてみたい。

1. ヴェトナム戦争を映画から学ぶ

文京洙編著「アジアの人々を知る本ーアジアで生きる人びと」(大月書店)の中で、ヴェトナム戦争を学ぶ重要性が語られている。少し長い文章だが本文を引用してみると、「隣国や東南アジアとのかかわりで、私たちの歴史認識や歴史教育の課題として深めるべき重要な問題はかつての十五年戦争だけではない。戦後についても、歴史教育のなかでやはり問われるべきいくつかの問題がある。たとえば、ベトナム戦争も、すでに日本の若者たちにとって、自分の生まれる前の過去の戦争になっている。日本も深くかかわり、その戦後史のなかで無視することができない、まだ身近ともいえるこのベトナム戦争については、高校生は基本的な歴史認識を持っているだろうか。」と著者は問いかけている。そして、現実には学校の授業より「ベトナム戦争についての知識は主に」映画をつうじてであるとして生徒のアンケート結果を紹介している。『「ベトナム戦争をテーマにした映画」を観たことがある」と回答した者が六～七割に達する。そのトップの映画がやはり『「プラトーン」である。』ということであった。

映画や映像は、視覚に直接訴えるので、そういう点では非常にインパクトの強いものである。映画をうまく使えば、取っ付きにくい世界史も幾分わかりやすくなるだろうと思う。私も本校の生徒に映画について意識調査を行ってみた。今回のヴェトナム戦争に関する部分を拾い出してみた。

高校1年生(約120人96年度)の映画に関する調査から。

「映画をよく観るか」について、「よく観る」45人(回答者の42%)、「あまり観ない」62人(回答者の58%)

であり、映画をあまり観ない生徒の法が多い結果となった。

「ヴェトナム戦争に関係した映画を観たことがあるか」では、「プラトーン」が3人「フォレスト・ガンブ」が4人、「7月4日に生まれて」4人、「ランボー」4人、「ハンバガー・ヒル」、「ホットショット2」(注)、「天と地」がそれぞれ1人ずつであった。

私の感想では、最近映画ですらもヴェトナム戦争の知識を得ていないということである。そもそも映画自体を観なくなっている傾向にあるように思える。この点については、別の機会に論じるとして、視覚の訴えて、ヴェトナム戦争の導入として観ることのできる映画について考えていきたい。

(注)「ホットショット2」は「ランボー」のパロディーなのでヴェトナム戦争を舞台として勘違いをしている生徒もいるのだが、実際はフセインを敵としてペルシア湾を舞台としている。

2. 映画「フルメタルジャケット」からヴェトナム戦争を観る

ヴェトナム戦争を扱った映画も最近ではたくさん作られている。アメリカでは、ヴェトナム戦争の「後遺症」として1978年以降、ヴェトナムを扱った映画が多数作られるようになった。78年の「帰郷」「ディア・ハンター」、79年「地獄の黙示録」、86年「プラトーン」、87年「フルメタルジャケット」「カジュアリティーズ」、89年「7月4日に生まれて」など。どれもヴェトナム戦争を批判して、その問題性を倫理観を含めて厳しく追及している。つい最近でも94年に「フォレストガンブ」が映画がされ、その中でヴェトナム戦争が触れられている。

ヴェトナム戦争を扱った意欲的な映画も多いのだが、その中でもオリバー・ストーン監督の「プラトーン」がアカデミー賞を受賞したこともあり知名度が高いようだ。しかし、ヴェトナム戦争の本質や軍隊の持つ非人間性をリアルに描いた映画としては、87年のスティーヴン・スピルバーグ監督の「フルメタルジャケット」が優れているように思われる。

ヴェトナム戦争の導入として、「プラトーン」ではなくあえて「フルメタルジャケット」を取り上げたいと思う。

「フルメタルジャケット」のあらすじは、67年という時代を背景に、前半では普通のアメリカの若者が海兵隊での軍隊教育を受けるなかで殺人兵器「フルメタルジャケットー完全被甲弾（簡単に言うと鉄砲の弾）」にさせられていく様子が克明に描かれている。この新兵訓練の中では、「いじめ」もありひとりの若者が最後には発狂して訓練教官を射殺して自分も自殺するので

ある。後半では、前線に送られたひとりの兵士の目を通して、ヴェトナム戦争の市街戦の様子がやはり生々しく描かれている。ヴェトナム戦争がジャングルだけの戦闘ではなく、市街戦もあったことがこれでわかる。この映画には、ヴェトナム戦争だけでなくすべての戦争、軍隊に通じる普遍的な問題を提示しているように思われる。この点において、「プラトーン」よりもリアリティーがあるように思われる。

ヴェトナムからの視点に欠ける点もあるが、ヴェトナム戦争とは何か全く体験していない生徒にはこれだけでも大きな衝撃になるだろう。約2時間の映画であるが、できれば全てを観ればいいのであるが、前半だけでも「戦争」の持つ狂気を感じることができる作品である。

3. ヴェトナム戦争の授業科に向けて

実際のところ、世界史の授業ではヴェトナム戦争までたどりつけない。これではいけないととヴェトナム戦争の授業化を考えてみた。まず導入は、視覚的にインパクトの強い「映画」を配置してそこからヴェトナム戦争の授業に入っていくことを想定してみた。導入は映画「フルメタルジャケット」を使い、その後の展開は今後の課題として次の機会に述べることにしよう。このヴェトナム戦争については、自分の記憶・体験を含めて語ることができることが強みである。今後は、ヴェトナム戦争と日本の関係を含めて授業化の準備を進めていく予定である。今回は資料として、不完全ではあるが、ヴェトナム戦争関係年表を作成してみた。

参考文献

- 小倉貞男 『物語ヴェトナムの歴史』 中公新書
 小倉貞男 『ヴェトナム戦争全史』 岩波書店
 文京洙編著 『アジアの人びとを知る本ーアジアで生きる人びと』 大月書店
 永積昭 『新書東洋史7 東南アジアの歴史』 講談社現代新書
 桜井由躬雄他『世界現代史7 東南アジア現代史』 山川出版
 本多勝一 『戦場の村』 朝日文庫
 清水知久 『ベトナム戦争の時代』 有斐閣新書
 山中速人他 『ビデオで社会学しませんか』 有斐閣ブックス
 猿谷要 『物語アメリカの歴史』 中公新書
 家永知史 『映画で学ぶ世界史』 地歴社
 ドウズ昌代 『水爆搭載機水没事件』 講談社文庫
 ウィンストン・グルーム 『フォレスト・ガンブ』 講談社

資料一ベトナム戦争関連年表

| ヴェトナム | | 日本・アメリカその他の国 | |
|------------|--|--------------|------------------------------------|
| 1802 | 阮福映、阮朝を開く | | |
| 1841 | ヴェトナムがカンボジアを合併 | | |
| 1859 | フランス、サイゴンを占領 | | |
| 1862 | ヴェトナム南部三省、フランス領となる 第一次サイゴン条約 | | |
| 1863 | カンボジア、フランスの保護国となる | 1868 | 明治維新 |
| 1874 | ヴェトナム南部六省がフランス植民地となる 第二次サイゴン条約 | | |
| 1883 | ヴェトナムはフランスの保護国になる | | |
| 1884 | 清仏戦争 | | |
| 1885 | 天津条約清国がフランスのヴェトナム保護領 化を承認 | | |
| 1887 | フランス領インドシナ連邦成立 | | |
| 1904.4 | ファン・ボイ・チャウ革命運動を組織 | 1894 | 日清戦争 |
| 1907 | ドンズン（東遊）運動始まる | 1904 | 日露戦争 |
| | | 1909 | 仏、日仏友好条約により日本からヴェトナム 留学生の退去を求める |
| 1927.12 | ヴェトナム国民党結成 | | |
| 1930.2 | ヴェトナム共産党創設 反仏武力蜂起 | | |
| | | 1931.9.18 | 柳条湖事件 満州事変 15年戦争のはじまり |
| | | 1937.7.7 | 盧溝橋事件 |
| | | 1939.9.1 | ドイツ軍ポーランドに侵攻 第二次世界大戦勃発 |
| 1940.9 | 日本軍、北部仏印進駐 | 1941.12.8 | 日本、真珠湾を攻撃 アジア・太平洋戦争勃発 |
| 1941.5 | ヴェトナム独立同盟（ヴェトミン）結成 | | |
| 7 | 日本軍、南部仏印進駐 | 1945.8.6 | 広島に原子爆弾投下 |
| 1945.9.2 | ヴェトナム民主共和国独立宣 （ホー・チミン主席） | 8.9 | 長崎に原子爆弾投下 |
| | | 8.15 | 日本、ポツダム宣言受諾 無条件降伏 |
| 1946.3.18 | フランス軍、ハノイ入城 | | |
| 12.19 | ヴェトミン軍一斉蜂起 インドシナ戦争勃発 | 1949 | 中華人民共和国成立 アメリカで赤狩り旋風強まる |
| 1949.7.1 | バオダイ帝のヴェトナム国成立 | 1950 | マッカーシー旋風の始まり |
| | | 1950 | 朝鮮戦争勃発 |
| 1950.1.10 | 米軍事援助顧問団サイゴンに設置 | 1951.9 | サンフランシスコ対日講和条約 日米安保条約調印 |
| 1951.3.3 | ヴェトナム労働党結成 | 1952 | チャップリン アメリカから追放される |
| 1953.10.20 | フランス軍、北ヴェトナムのディエンビエン フー占領 | | |
| 1954.5.7 | ディエンビエンフー陥落 | 1954.3 | ビキニ水爆被災事件（第五福竜丸） |
| 7.6 | ゴ・ディエン・デム米国から南ヴェトナム に帰国 | | |
| 7.20 | ジュネーブ協定調印 インドシナ休戦 南北ヴェトナム分割 | 1955.9.8 | 東南アジア集団防衛条約機構結成 |
| 1955.10.26 | 南ヴェトナム国民投票でバオダイ帝退位 ゴ・ディエン・デム大統領となる共和制宣言 ヴェトナム共和国成立 | 1959.5.13 | 日本政府ヴェトナム共和国と賠償協定に調印 |
| 1960.12.20 | 南ヴェトナム民族解放戦線結成 | | |
| 1961.2.15 | ヴェトナム人民解放軍発足 | 1960.5 | 安保改訂反対運動 |
| 1962.2.8 | アメリカ南ヴェトナム援助軍司令部設置 | 1961.5.11 | 米、北ヴェトナムへの秘密作戦開始を決定 |

| | | | |
|-----------|-----------------------------------|------------|--|
| 1963 5 | 南ヴェトナム仏教徒の反政権デモ | | |
| 6・1 | 仏教徒の焼身自殺 | | |
| 1963 11・1 | 南ヴェトナムで軍事クーデター シエム大統領殺害 | 1963 11・22 | ケネディ大統領暗殺 |
| 1964 1・30 | 南ヴェトナムでグエン・カーン将軍のクーデター | | |
| 2・7 | 南解放勢力米軍宿舎を攻撃 | | |
| 3・2 | 米軍の恒常的北爆開始 | | |
| 3・8 | 米海兵隊などダナン上陸 | | |
| 6・18 | アメリカ、B52で南ヴェトナム爆撃開始 | | |
| 8・2 | トンキン湾事件 | | |
| 1965 6・14 | 南ヴェトナム、グエン・バン・チュー将軍の 国家指導委員会発足 | 1965 | 韓国政府、韓国軍ヴェトナム派遣発表 |
| | | 1965 3 | ヴェトナム武力介入即時中止を訴えた約300人の 著名人の米大統領にあてた公開質問状を 「ニューヨーク・タイムズ」紙が公表 |
| 1966 | 南ヴェトナム各地で反政府運動始まる | 12・5 | 沖縄沖で、水爆搭載機水没事件発生 |
| 6・29 | 米軍機、ハノイ・ハイフォン地区初爆撃 | | |
| 1967 1・6 | 米海兵隊、メコン・デルタに上陸、侵攻準備 | | |
| 1968 1・30 | 南ヴェトナム解放戦線のテト攻勢開始 | | |
| 3 | 米軍による、ソンミ村虐殺事件 | | |
| 5・13 | 米、北ヴェトナムのバリ和平会談始まる | | |
| 10・31 | 米大統領、北爆停止、バリ会談拡大を声明 | | |
| 1969 2・23 | 南ヴェトナム解放戦線のテト明け攻勢開始 | | |
| 6・10 | 南ヴェトナム臨時革命政府樹立発表 | | |
| 7・8 | 米軍撤退第一陣 | | |
| 9・2 | ホー・チミン主席死去 | | |
| 11・16 | ソンミ村虐殺事件発覚 | | |
| 1970 4・30 | 米軍、カンボジアに侵 | 1970 | アメリカで反戦運動の学生4人射殺され反戦 デモ全米に拡大 |
| 1971 2・8 | 米・南ヴェトナム軍、ラオスに侵攻 | | |
| 1972 1・20 | 米軍、ヴェトナム、ラオス、カンボジア三国 国境地帯を爆撃 | 1971 8 | アメリカ、ドル・ショックによる国際通貨不安 |
| 3・30 | 南ヴェトナム解放勢力、大攻勢を開始 | 1972 2・21 | ニクソン米大統領、訪中 |
| 4 | 北爆再開 | 1972 5 | 沖縄復帰 |
| 1973 1・27 | パリでヴェトナム和平協定調印 | 6・11 | ウオーター・ゲート事件発覚 |
| 1・28 | ヴェトナム停戦発効 | 9・29 | 日中国交正常化 |
| 3・29 | 米軍撤退完了 米司令部解散 | | |
| 1975 4・30 | ヴェトナム戦争終結 | 1974 8・8 | ニクソン大統領辞任 |
| | | 1975 4 | アメリカ、ヴェトナム撤収 |